

あとがき

酷暑の夏、皆様いかがお過ごしでしょうか。2022 年前半の大きな出来事は、何ととってもウクライナ問題です。ウクライナの現状は悲惨の一言です。網膜硝子体学会のニュースレターにも記しましたが、破壊されたビルの傍らで父親の名前を泣きながら叫ぶ金髪の少女の映像に、映画「禁じられた遊び」で、戦災孤児となったポーレットが「ミシェル、ミシェル」「ママ、ママ」と泣きながら駆け出した姿が重なります。人間は歴史から何も学んでいないと感じて、何ともやりきれない気持ちになりました。それだけではなく、ウクライナ戦争の影響で、世界中で進むインフレ、エネルギー価格高騰による光熱費の上昇など、経済の先行きも全く不透明です。新型コロナウイルス感染も完全には克服されないまま、次から次に新しい問題が起こっています。過去 30 年は、それなりに社会は安定していましたが、これからの社会はそうはいかないようです。

さて、今月の話題は「眼瞼内反手術」です。眼科の過去 30 年を考えると、好調な経済に裏付けられた白内障手術の大流行、硝子体手術の発展、レーザー技術の発展による LASIK の拡がり、そして緑内障や網膜疾患への新しい薬物療法など、その時々注目を集める「流行」がありました。日本では、現在眼形成手術が大きな注目を集めています。一方、現在連載中の近視の問題も世界的な眼科研究テーマとなっています。面白いことにその傾向は海外でも一緒であり、私が編集長を務める Springer の眼科専門誌には、眼形成術や近視に関する論文が次から次へと投稿されてきています。まさに現在の「流行」といってもよいほどです。これらの「流行」は、平和であればこそ人々の関心を集めるテーマとなりえます。ウクライナ眼科医によれば、現在は午前中診療をして、午後は軍での活動あるいは外傷の治療をしているということです。医療は社会状況に強く影響されますが、われわれの眼科の「流行」が平和な社会において注目を集める眼科医療であり、それがこれからも続くことを祈ります。(坂本 泰二)

編集顧問	増田寛次郎 大野重昭 玉井 信 三宅養三 西田輝夫 水流忠彦 根木 昭 寺崎浩子 中澤 満 下村嘉一 井上幸次
編集委員	坂本泰二 鈴木康之 稲谷 大 堀 裕一 西口康二 黒坂大次郎

臨床眼科 (第 76 巻 第 8 号)

2022 年 8 月 15 日発行 (毎月 1 回 15 日発行)

定価 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

(2022 年年間購読料 (増刊号を含む 13 冊, 税込, 送料弊社負担))
冊子版 44,154 円
電子版 (個人) 44,154 円
冊子 + 電子版 (個人) 49,654 円

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 俊

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室 (03) 3817-5706 FAX (03) 3815-7802

E-mail: ringan@igaku-shoin.co.jp

販売・PR 部直通 (03) 3817-5659

印刷所 三報社印刷(株)

広告取扱 (株) 文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

別刷取扱 (株) 医学書院販売・PR 部 電話 (03) 3817-5696

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo Bunkyo-ku, Tokyo © 2022, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は株式会社医学書院が保有します。
- 本誌を無断で複製する行為 (複写, スキャン, デジタルデータ化など) は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的 (診療, 研究活動を含む) で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- JCOPY** < 出版者著作権管理機構 委託出版物 >
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつど事前に, 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。
- *「臨床眼科」は株式会社医学書院の登録商標です。

担当 山本・松井・安部